



卓 話



国際ロータリー第2580地区 ガバナー 石川 正一氏

私は、入会してから29年間皆出席しておりますが、ロータリーについて深く考えることはありませんでした。会長や幹事など、役員を拝命されるごとに、「ロータリーとは何か」と考え、ロータリーへの理解を深めてきました。この機会を得ましたので、私が最近考えていることを話させていただきます。



ガバナーの任務のなかでも、一番重要な事は楽しいクラブの運営と、会員の増強を支援することです。皆さんとともに、会員増強についても考えていきたいと思えます。

私は、2010年に沖縄分区のガバナー補佐を引き受けたとき、若い人を中心にクラブを立ち上げようと思い、那覇北クラブを創立しました。27名でスタートし、若い人たちを中心に元気なクラブ運営をしています。ロータリーは会員増強が難しいと言われていますが、新しいクラブの設立も、決して出来ない事ではありません。

ロータリー財団はご承知のとおり、ロータリアンの寄付で成り立っています。国際ロータリーは毎年、1人100ドルずつの寄付をお願いする事をロータリアンに推奨しています。世界のロータリアンは120万人ですので1人100ドルの寄付をしますと、12,000万ドルの基金が集まります。仮に米貨の1ドルを100円で換算しますと日本円で120億円の基金が出来るといふ計算になります。この資金によってポリオプラスをはじめ、6つの重点分野を中心に奉仕活動を行っています。

年間100ドルという寄付は1ヶ月当たり約800円になります。世界中で1年間に120億円の予算で善行を営んでいることになります。私達は、ロータリークラブの会員であり、バッチの使用料と思えば、年間100ドル寄付も理解しやすいと思えます。どうか今後ともご協力お願い致します。

田中作治RI会長は「奉仕を通じて平和を」を2012年～13年のRI会長テーマに掲げています。奉仕は、「分かち合いの心」と「思いやりの心」を持つことが大切であり、奉仕の心は、自分の人間性の向上に繋がると言っています。また、世界的な奉仕活動は国際理解に繋がり、それによって平和への維持貢献ができると考えています。

ロータリークラブは1905年にポール・ハリスが3名の友達が中心となり、シカゴロータリークラブを創設したのが、最初のロータリークラブと言われています。現在では、200以上の国や地域で120万人以上の会員で構成する大組織になりました。

日本では1920年に東京ロータリークラブが承認され、第二次世界大戦の開戦を前に1941年脱退しましたが、その後1949年に再度承認され、その後会員が増え、1996年6月末には、全日本のロータリアンは、129,909名にのびりました。

2012年5月末現在、日本のロータリーは34地区あり、クラブは2,292、会員数は89,228名で90,000人を切ってしまいました。16年間でロータリアンは40,000名減少した事になります。つまり1996年から2012年までの16年間は、1年で2,500名ずつロータリアンが減っている事になります。

ロータリーは会員増強の以前に、ロータリーの「ほんとうの魅力は何か」を認識する必要があります。

ロータリーは人的ネットワークを作る場としての魅力があります。成功している人達は5倍も10倍も人的ネットワークを持っているといわれています。ロータリークラブの集いが「何か良い事をしよう」という高い資質の人々であり、ロータリーの例会には、それなりの価値が出てくるでしょう。

例会出席の意義については、異業種の集まりであるロータリークラブは、知恵を分け合う場でもあります。

トーマス・エジソンの言葉を借りれば、「天才は1パーセントのひらめきと99パーセントの努力である。」は有名な言葉です。

また、アルベルト・アインシュタインの言葉を借りれば、「成功者をAとすると、 $A=X+Y+Z$ 」という方程式が成り立つといえます。つまりX=仕事、Y=遊

び、Z=口を閉ざす事といいます。仕事が出来て、遊びが出来て、口を閉ざす事が成功者の条件というので、理解に苦しむところですが、「企業も個人も成功には秘訣がある。」ということだと思います。ロータリーで親睦が深まり、そうした秘訣を先輩方から聞くのがロータリークラブの魅力であるとも考えられます。そのためには、会員相互の親睦を深めるという事が大切であります。このように考えると、例会への出席は、最も身近なクラブ奉仕であり、また、社会奉仕であると思います。

最後に新世代奉仕についてですが、新世代奉仕で一番大きな仕事は青少年交換です。青少年交換プログラムは、日本全国から150人余の高校生を海外のロータリークラブに派遣しています。また20カ国以上の国から交換留学生在が来日し、ホームステイをしながら日本の高校で学んでいます。

2002年からはじまった平和フェローでは、世界平和に関連する学科を設けている7大学を指定し、各大学に10名程派遣しています。日本では国際基督教大学（ICU）が、国際問題研究のための役割を果たし、ロータリー平和センター（修士課程）が設置されています。また、今年の6月までに9期、計71名の平和フェローが学んでいます。

2009年には、ICU献学60周年記念事業として、東ヶ崎潔記念ダイアログハウスが建設され、ロータリー世界平和フェロー達の研究発表の場として活用されています。これに関する募金も行っていますが、まだまだ目標の達成には至っていませんので、皆さんにご協力をお願いしています。

もう1つRIの常設プログラムであるインターアクトとローターアクトについてですが、第2580地区におけるローターアクトクラブの現状は、33クラブが提唱し、25クラブが解散。インターアクトクラブも、26クラブが提唱し、15クラブが解散しています。若い世代にロータリーの哲学を理解してもらう事も大切だが、日本の将来を担う若者たちの育成のために、インターアクト並びにローターアクトの提唱や支援活動を推進しなければなりません。

クラブ単位、もしくは個人でロータリーを正しく理解し、もう一度ロータリーの魅力を研究しましょう。ロータリアンが一人ずつ声をかければ、来年はメンバーが2倍になります。会員が増えないのは、増強活動のためのエネルギーが不燃焼になっている事が大きな問題だと思っています。藤原会長を中心に、全クラブをあげて、ロータリークラブへの参加の機会を与えられるよう、皆さんで頑張ってください。